

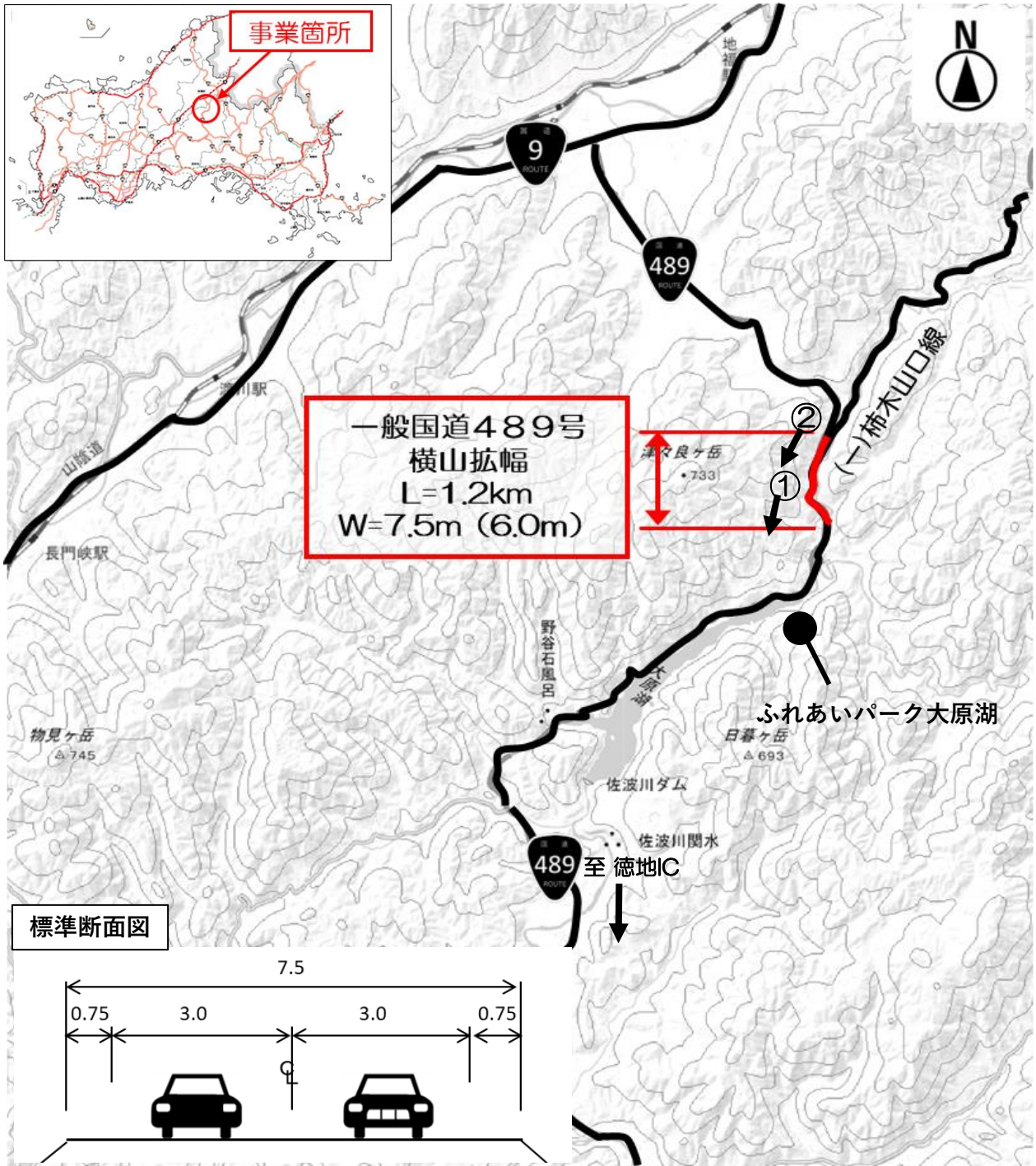
再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後 ( 年 ) ○ 再評価後 ( 年 ) ● その他 ( 変化 )					
1 事業 概要	事業名	一般国道489号 <small>よこやまかくふく</small> 横山拡幅 道路改築事業					
	事業場所	<small>やまぐちしよぐちのたに</small> 山口市徳地野谷					
	事業主体	山口県					
	事業期間	《 前回評価 平成 24 年時 》 平成 25 年度 ~ 令和 9 年度 《 平成 32 年度 》 ( 西暦 2015 年度 ~ 西暦 2027 年度 《 西暦 2020 年度 》 )					
	総事業費 (内用地補償費)	《 1,200 百万円 》 1,800 百万円 ( 95 百万円 )	既投資額 (内用地補償費)	500 百万円 ( 90 百万円 )	進捗率 (用地補償費)	28 % ( 95 % )	
	事業目的	<p>一般国道489号は、周南市大神の国道2号との交差点を起点とし、山口市徳地を經由して山口市阿東町の国道9号に至る幹線道路である。当該路線は、国道9号が通行止めとなった際の迂回路としての機能を有していることに加え、第2次緊急輸送道路にも指定されている。</p> <p>しかしながら、当該区間は、道路幅員が狭く、線形も悪いことから、車両同士のすれ違いが困難な状況である。また、土砂崩れや落石等の危険性が高い箇所が複数存在しており、安全で円滑な交通に支障をきたしている。</p> <p>このため、当該区間の整備を行うことにより、安全で円滑な交通を確保することで地域住民の利便性や安全性の向上やリダンダンシーの確保、地域観光産業の活性化を図るものである。</p>					
事業内容	<p>○延長 : L=1.2 km ○幅員 : 全幅7.5m (車道3.0×2=6.0m) ○道路区分 : 第3種第3級 ○計画交通量 : 1,100台/日</p>						
事業効果	<p>○地域住民の利便性や安全性の向上。 ○リダンダンシーの確保。 ○観光施設への円滑な交通の確保。</p>						
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	<p>当該路線沿線に位置するふれあいパーク大原湖は、年間約1.1万人の観光客数がある。また、当該事業箇所周辺に位置する、道の駅「長門峡」では46万人、重源の郷では1.6万人の観光客数があり、SLやまぐち号やあじさいの撮影スポットとして近年、注目を集め観光客が増加しているため、当該路線の整備の必要性は依然として高い。</p>				中項目 評価	大項目 評価
	関係市町及び地元の意向	<p>当該道路は、山口市から早期整備の要望がある。 地元住民は事業に協力的である。</p>				中項目 評価	大項目 評価

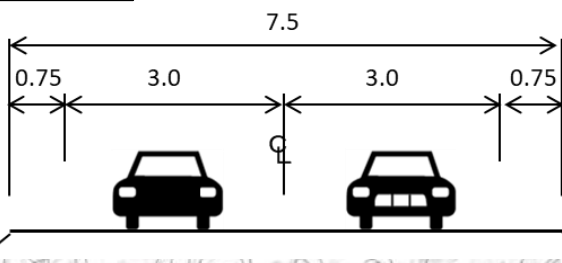
2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	(単位：百万円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前 回</th> <th colspan="2">今 回 (再評価 再々評価)</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>(基準年：H24)</th> <th colspan="2">(基準年：R4)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>全体事業</td> <td>全体事業</td> <td>残事業</td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">便益 (B)</td> <td>①走行時間短縮便益</td> <td>1,225</td> <td>2,073</td> <td>2,073</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②走行経費減少便益</td> <td>104</td> <td>302</td> <td>302</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③交通事故減少便益</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>総便益</td> <td>1,329</td> <td>2,377</td> <td>2,377</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>945</td> <td>1,628</td> <td>1,005</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>37</td> <td>27</td> <td>27</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>982</td> <td>1,655</td> <td>1,032</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>費用便益比 (B/C)</td> <td>1.4</td> <td>1.4</td> <td>2.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>前回評価：「費用便益分析マニュアル」(H20.11) 基準年：H24 平成17年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p> <p>今回評価：「費用便益分析マニュアル」(R4.2) 基準年：R4 平成22年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p>	区分	主な項目	前 回	今 回 (再評価 再々評価)		備 考	(基準年：H24)	(基準年：R4)				全体事業	全体事業	残事業		便益 (B)	①走行時間短縮便益	1,225	2,073	2,073		②走行経費減少便益	104	302	302		③交通事故減少便益	0	2	2			総便益	1,329	2,377	2,377		費用 (C)	①事業費	945	1,628	1,005		②維持管理費	37	27	27		総費用	982	1,655	1,032			費用便益比 (B/C)	1.4	1.4	2.3		大項目評価 A ・ B ・ C
		区分	主な項目	前 回			今 回 (再評価 再々評価)		備 考																																																							
				(基準年：H24)	(基準年：R4)																																																											
				全体事業	全体事業	残事業																																																										
便益 (B)	①走行時間短縮便益	1,225	2,073	2,073																																																												
	②走行経費減少便益	104	302	302																																																												
	③交通事故減少便益	0	2	2																																																												
	総便益	1,329	2,377	2,377																																																												
費用 (C)	①事業費	945	1,628	1,005																																																												
	②維持管理費	37	27	27																																																												
	総費用	982	1,655	1,032																																																												
	費用便益比 (B/C)	1.4	1.4	2.3																																																												
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>工事については、起点側0.3kmの令和6年度中の供用を目指し、整備を進めている。用地買収は概ね完了しており、今後計画的な事業進捗が見込まれる。</p> <p>【事業費の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 無</p> <p>事業費の増は、補強土壁工法設計・施工マニュアルの改訂に伴い安全率等が変更となり、補強土壁工が大型化したため。また、事業着手後、現地測量を実施した結果、盛土区間において一部急峻な沢地形が確認されたため、補強土壁工を追加したことによる。</p> <p>【事業期間の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 無</p> <p>補強土壁工の変更、追加が生じたことや、筆界未定用地の測量、調査、用地交渉に時間を要したことから事業期間を令和9年度まで延伸する。</p>	大項目評価 A ・ B ・ C																																																													
	コスト削減	切土工・盛土工の施工にあたっては他の公共事業との土砂流用の調整を図る。	中項目評価 a b 大項目評価 A ・ B ・ C																																																													
(4) 代替案等の可能性	代替案	利便性、経済性、施工性を総合的に勘案し、最適なルートを選定しているため、計画どおり進めることが妥当と考える。	中項目評価 a b 大項目評価 A ・ B ・ C																																																													
	3 環境	配慮事項	法面工について、緑化工法を採用する。また、低騒音・低振動の機械を使用する。																																																													
4 対応方針	(事業実施主体案)	総合評価	● 継続                      ○ 見直し継続                      ○ 中止																																																													
	評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																														
	備考																																																															

一般国道489号 横山拡幅 道路改築事業

平面図



標準断面図



この地図は、国土地理院の地理院地図（電子国土Web）の一部を掲載したものである。

写真

